照井一明*・照井佳代子**・柳沢博文*・小林武久*：陸中海岸北部の
種市層から白亜紀化石の発見***

Kazuaki TERUI, Kayoko TERUI, Hirobumi YANAGISAWA and Takehisa
KOBAYASHI : Cretaceous Fossils from the Taneichi Formation
in the north coast of Rikuchu, Iwate Prefecture

(1975 年 4 月 25 日 受理)

新第三紀中新世に対比されていた種市層から採集した数種類の化石から、本層の年代が上部白亜紀であることが明らかになったので報告する。

種市層は、岩手県沿岸最北部の角ノ浜から中野にかけて、約 18km にわたり、花崗岩及び下部白亜系を不整合におおって、細長く分布している砂岩を主とする地層である(第 1 図)。本層分布地域の南側には、花崗岩をはさんで広く久慈層群と野田層群が分布している。久慈層群については、かつて中村(1911)、山根(1915)は第三系と考えていたが、佐伯(1928)は、パリヌルス科のエビの化石を発見し、これを白亜系に改めた。地質については佐伯・佐々(1930)、佐々(1932)の詳しい報告がある。その際、佐伯(1928)は種市層分布地域の陸中八木からも同様の化石が産することにふれ、久慈層群と同じ年代と考えた。その後、浅野(1959)は、化石のほとんど知られなかった、種市付近から採集した二枚貝を *Panope japonica* (A. ADAMS) と同定し、本層を新第三紀中新統のものであることを報告し“種市層”と命名した。

しかし、筆者らは本層のほとんどの層準から琥珀を産すること、石炭、珪化木、炭化木を含むこと、また岩相が類似すること等から、やはり白亜系ではないかという疑問をもって調査していたところ、種市付近の細粒砂岩から *Panopea* とともに、生痕化石、イノセラムス、アンモナイト、サメの歯、エビ等の化石を採集することができた。特に種市港北側の細粒砂岩では、化石の産出が多く、次の諸種が同定された。*Inoceramus naumanni* YOKOYAMA (図 2-1, 2, 3, 4), *Polyptychoceras* cf. *subundatum* (YOKOYAMA) (図 2-5, 7, 8), *Polyptychoceras* (?) sp. (図 2-6), *Panopea* sp. (図 2-9)。なおこれらの化石の

うち特に *Inoceramus naumanni* YOKOYAMA と *Panopea* sp. は産出が多い。エビなども完全な形で複雑な構造がよく残っており破損が少ないこと、産状もノジュールや礫から産したものではなく、また、ふきだまり状に層理に平行に産することが少ないことから考えて、再堆積したものではないことが明らかである。*Polyptychocera subundatum* (YOKOYAMA) と *Panopea* sp. は久慈層群中部の国丹層から、佐々(1932)が報告している。上記の

第 1 図 種市町付近の地質図

* 岩手県立種市高等学校

** 種市町立種市小学校

*** 昭和 49 年度日本地質学会東北支部総会にて講演

第2図 種市層産化石

1, 2, 3, 4. *Inoceramus naumanni* YOKOYAMA ; 5, 7, 8, *Polyptychoceras* cf. *subundatum* (YOKOYAMA) ; 6. *Polyptychoceras*(?) sp.; 9. *Panopea* sp.

化石群は、上部白亜紀中期（浦河世）の特徴種を含み、おそらくは $K_{5\beta}$ （サントニアン）に対比できるものと思われる。この化石産地のほか、八木、玉川からも *Inoceramus naumanni*, *Panopea* sp. その他を採集している。

第3図は本層の模式柱状図である。本層は南限の中野付近では孤立して分布は狭く、花崗岩を不整合におおって礫岩が重なる。さらに上位は、砂岩礫岩互層中に、炭質物層と白色凝灰岩を挟在し、野田玉川北岸や久慈市夏

第3図 種市層の模式柱状図

井付近の玉川層上部の層序と類似する。

有家から種市にかけては緑色砂岩を主とし、暗灰色の泥岩薄層、石灰質砂岩塊、ノジュール状団塊を多量に含む砂岩、イノセラムス、アンモナイト等を産する細粒砂岩を挟むなどの特徴がみられる。種市付近の窓岩では大形のカキの密集層や、炭質物とともに琥珀を多く含む部分がある。この化石及び岩相は、野田玉川付近の国丹層

第1表 対比表

や模式地の国丹層に類似している。

さらに北方の平内付近では、緑色砂岩の上にチャート、ホルンフェルス、花崗岩を主とする巨礫岩層が整合的に重なり、さらに上位には砂岩が、さらには砂岩、礫岩の互層、一部に凝灰質、泥質の部分もみられるが全体的に礫質である。この部分は不明の点もあるが、沢山層下部に今のところ対比しておきたい。以上に基づく本層の対比を第1表に示した。

本稿を草するに当たり、化石同定の労を賜った東京大学総合研究資料館の速水格氏と九州大学理学部松本達郎教授に厚く御礼申し上げます。また、有益な御指導を戴いた岩手大学教育学部橋行一教授、文献調査に便宜を計って下さった同大学工学部村井貞允教授、また、原稿に目を通していただき、さまざまな御教示を戴いた地質調査所の長浜春夫氏に深く感謝致します。さらに終始暖かな御配慮と激励を下された種市高等学校の教職員の方々に心から感謝の意を表します。

文 献

- 浅野清, 1959: 岩手県種市町附近の“白亜系”の化石。有孔虫, no. 10, 12.
- 中村新太郎, 1911: 20万分の1地質図幅「一戸」および説明書, 地質調査所。
- 島津光夫・寺岡易司, 1960: 5万分の1地質図幅「陸中野田」および説明書, 地質調査所。
- 佐伯四郎, 1928: 岩手県久慈地方に於ける中生代化石の発見。地質雑, 37, 560—562.
- 佐伯四郎・佐々保雄, 1930: 岩手県の久慈層群に就いて。地質雑, 37, 313—315.
- 佐々保雄, 1932: 岩手県久慈地方の地質について, (1), (2), (3)。地質雑, 39, 401—430, 481—501, 552—580.
- 山根新次, 1915: 20万分の1地質図幅「盛岡」および説明書, 地質調査所。